

文京区障害者地域自立支援協議会
平成22年度相談支援専門部会 まとめ

相談支援専門部会開催状況

<第1回相談支援専門部会(H22.8.4)>

相談支援専門部会の方向性について

前年度部会からの方向性：「事例検討を継続していく」



定例会議の開催について議論

<議論された内容>

困難事例の概念/定例会議で扱う事例/サービス利用計画の策定と個別支援会議/
個別支援会議・定例会議・部会の役割/
その他の課題(情報の発信・アウトリーチ・研修・施設入所者・相談支援事業・
ケアマネジメント・社会資源マップ・障害福祉計画等)

定例会議とは・・・

**「障害者の支援に携わる方々が集まり、
事例をもとに意見や情報を交換する場、ネットワークを作る場」**

【参加者】 自立支援協議会及び部会委員の所属事業所職員(サービス管理責任者等を想定)

【内容】 各施設(事業所)で扱った事例について報告する(内容は限定しない)

<定例会議の開催>

平成22年10月～平成23年1月の間に、3回開催(別紙1参照)

<第2回相談支援専門部会(H23.2.21)>

定例会議の報告と今後の相談支援専門部会について

(1) 定例会議の報告と今後の方向性について

- ・様々な意義があり、今後も継続していくことについては一致した。
- ・参加対象者や会議の方向性については、様々な意見があり今後の検討課題となる。

会議の
方向性

- ①同じ趣旨、内容で事例発表の場として継続していく。
- ②支援会議や事例検討会が各事業所やケースごとに活発に行われるようになれば、定例会議はスーパーバイズ等に役割を特化したり、縮小する方向性となる。

(2) 相談支援専門部会の役割と方向性について

- ・地域課題を整理するためにも、定例会議での事例検討をさらに充実させる。
- ・相談支援専門部会で取り組むことを明確にし、課題について検討を進める。

(3) その他(発達障害児について、手帳と年金の等級について)

下命事項について

- ① 相談支援体制の現状と問題点の検討を踏まえ、事業者や相談機関における望ましい相談・支援体制・新たなアウトリーチ等についての検討
- ② 身体・知的・精神障害それぞれの問題点を個別に検討し課題を明確化
- ③ 相談支援に係るネットワーク構築についての検討

⇒定例会議で区内の関係者が集まってお互いの取り組みを知り、下命事項に対して一定の土台作りを進めてきた。

(成果) 普段顔を合わせる機会のない方々が集まり、**ネットワークを作っていく**第一歩を踏み出すことができた。

具体的には…

- ① 支援者が抱える悩みを共有し、解決に向けてのヒントを皆で探る。
- ② 3障害それぞれアプローチの視点の違いがあり、現状や問題点が挙げられる。
- ③ 困難事例での連携の重要性が浮き彫りになった。互いの支援内容を知る機会となった。

(課題) **地域の課題を整理**して部会にあげる目的については、限られた時間の事例検討の中で整理していくことは難しい。

⇒定例会議を含めた一定の成果をもとに、今後の取り組みにつなげていく。

今後の相談支援部会の方向性として・・・

※別紙2参照

<定例会議の継続開催>

1. 定例会議は一定の成果をあげており、参加者からの希望もあり、今後も継続していく。
2. 当面は、これまで開催してきた規模、内容、方法を変えずに行っていく。

※ただし、22年度の課題を踏まえて今後も会議のあり方を検討していく。

<研修会の開催>

1. 定例会議で出てきた課題などを中心にテーマを設定して、様々な関係者に集まっていただき講演会やシンポジウム形式などの研修会を行い、スキルアップを図る。
2. 研修会形式であれば、より多くの関係者に参加してもらうことが可能である。

<相談支援専門部会の方向性として>

1. 地域課題を整理するためにも、定例会議での事例検討をさらに充実させる。
⇒相談支援事業者のスキルアップ、「相談支援」の内容の整理、各事業者で課題整理できるような枠組み作り
2. 相談支援専門部会で取り組むことを明確にし、課題について検討を進める。
(アウトリーチ、ネットワーク、制度では行き届かない部分を埋める仕組み、相談窓口、資源開発、相談支援システム等)

平成22年度相談支援専門部会 定例会議の開催状況報告について

開催状況

＜第1回定例会議(H22.10.14)＞ 人数：29名 会場：障害者会館C会議室 時間：18時～20時
事例01 複数事業所をつなぐ～サービス利用計画と個別支援会議～（知的障害） 文京槐の会
事例02 独居の方の生活支援（精神障害） あせび会支援センター

＜第2回定例会議(H22.11.12)＞ 人数：29名 会場：障害者会館A会議室 時間：18時～20時
事例03 家族支援の必要な精神障害者の一事例（精神障害） エナジーハウス
事例04 進行性神経難病の人の在宅支援（身体障害） トチギ介護サービス

＜第3回定例会議(H23.1.14)＞ 人数：27名 会場：障害者会館A会議室 時間：18時～20時
事例05 更生施設から地域での生活へ移行された方の支援（精神障害） あせび会支援センター
事例06 Iさんを中心とした家族支援（知的障害） 本郷福祉センター若駒の里

事例検討からのポイントと課題

① 支援会議で目標の共有化
相談支援事業所がコーディネート役で個別支援会議を開催し、本人の思いを中心に関係機関が目標を共有し、役割分担をすることができる（ネットワークの形成）

② 対象者や地域の課題の共通認識
様々な立場の関係者が集まって議論することで、対象者や地域が抱える課題を共通認識として持ち、課題解決に向けて連携して取り組む基盤ができる

③ 対象者の全体像を把握
関係機関が連携して情報交換することで、本人のいろいろな面に気づくことができ、全体像を把握することができる

支援会議を通じた 関係機関のネットワーク の重要性

④ 支援困難な対象者へのアプローチ
関係性を築くことが困難な対象者に対して、関係者で連携し、様々な人が関わることで、アプローチが可能に *キーパーソン

⑤ 家族全体の支援
家族の複数人が何らかの支援を必要としている
⇒関係機関で連携して家族全体を支援できる

⑥ 社会資源のアセスメント
1事業所だけ、従来サービスだけで対処できないニーズ
⇒支援会議で関係機関のサービスをアセスメントし、隙間のない支援が可能に

ネットワークを作るうえでの様々な課題支援計画作成に関する課題

《段階を追った支援計画》支援が進む中で徐々に目標も変化する。支援会議を進める中で目標を共有しながら、段階的に進めることが必要である。

《本人、支援者間での意見の相違》本人、家族、支援者間で意見が相違する場合もあり、本人の思いを汲み取り関係者で目標を共有していくことが必要である。

定例会議のアンケート結果から感想

- ・区内の様々な大変なケースを知ることができた。
- ・様々な課題を抱えた困難な事例を検討することで学びを得ることができた。
- ・多くの方と意見交換することの大切さを感じた。
- ・事例発表をすることで、改めて事例を捉え直す機会になった。
- ・回を重ねるごとに議論も活発になってきた。
- ・事例に関わっていないので、一方的に聞くことになりやすい。

学んだこと

- ・課題解決に向けて、支援者、事業所が協力していることがわかり、連携していく重要性を改めて確認した。
- ・本人の思いをくみ取り、支援者全員が同じ目標意識で支援することが重要と感じた。
- ・サービスを拒否された場合の難しさを感じた。
- ・キーパーソンがないと方向性を決められず、進展も難しい。

<会議の内容や進め方に関する意見>

会議の規模

- もっと小さく：気軽に意見交換できる
- もっと大きく：会場を広くして、障害者支援に関わる人がもっと参加
- 今までと同じでよい
 - ※グループ分けする方が議論しやすい

内容、進め方

- 深く掘り下げると時間が足りない
短縮するとケースが見えなくなる
- 発表者の意図を明確にする
 - ・方向性を議論したい、報告にとどめる
 - ・事例から伝えたいこと
- 1度発表した事例のその後の経過を発表する機会があるとよい

参加対象者

- 障害種別を問わないこと
 - ・長所：視野が広がる、自分の振り返りになる、現場で活かせる、視点の違いがわかる
 - ・短所：専門分野の理解が難しく、議論しにくい
- 対象者を増やすこと
 - ・長所：多くの人に参加できる
 - ・短所：意見交換が難しい、個人情報の観点から不安がある
- 保健師に参加してもらい、意見を聞きたい
- 若い人の参加を増やしたい（勉強のため）
- オブザーバー的な方入ると議論しやすい
(3回目は高山先生ご参加いただき、具体的な説明や指摘があり参考になった)

運営方法など全体的なこと

《運営方法》相談支援事業所などが運営の核となり複数の検討会ができて、関連や興味のあるところが参加して、半年か四半期に1回程度全体の交流会を開くとよいと思う。

《会議のフィードバック》事例は回収されるので、年に1回程度、どのような事例が発表されてどのように検討されたかまとめてほしい。

会議の意義

- 《ネットワーク作り》会を重ね、ネットワーク、横のつながりを広げていきたい
- 《相談支援のレベルアップ》事例を通して事業所が抱える課題見えてきて、相談支援体制のレベルアップにつながる（⇒多くの事業所に発表してほしい）
- 《問題の共有》事例を深く検討するというより問題を共有しあう場
(⇒今の形式でよい)

<今後意見交換してみたいこと>

- ・各施設で困っていることなど
- ・障害者のサービスから介護保険に移行する場合の様々な課題について
- ・何か一事例を取り上げて、実際に個別支援計画を考えてみる
- ・保護者同士のつながりをどのように作り上げていったらよいか
- ・とにかく回数を重ねていく

定例会議の成果と課題

当初のねらい・・・

**「障害者の支援に携わる方々が集まり、
事例をもとに意見や情報を交換する場、ネットワークを作る場」**

想定した目的（メリット）定例会議を開催した結果

- | | | |
|------------------------------|---|-------------------------------|
| ① 事例提供者が、困った時に相談できる | → | 解決方法には至らないが、意見交換ができた |
| ② 支援を振り返り、気づきを得られる | → | 発表者が、事例を捉え直す機会となった |
| ③ 参加者が、 <u>様々な情報、視点を得られる</u> | → | それぞれ異なる視点、情報を共有できた |
| ④ <u>専門職の顔の見える関係</u> ができる | → | 多くの方にご参加いただき、交流できた |
| ⑤ 現在ある資源や支援方法の整理ができる | } | 現状や課題を整理するところまでは
定例会議では難しい |
| ⑥ システムや資源の改善につながる | | |
- (地域の課題を明らかにする)

定例会議の成果

○立場や対象者の異なる様々な方が集まって意見交換することで、
異なる視点や情報を共有することができた。

○区内でも普段顔を合わせる機会のない方々が集まり、
ネットワークを作っていく第一歩を踏み出すことができた。

定例会議の課題

○**定例会議の進め方**については、その規模や対象者、議論の方法など
様々な意見があり、回を重ねながら作っていく必要がある。

○**地域の課題を整理**して部会にあげる目的があるが、
限られた時間の事例検討の中で整理していくことは難しい。

**相談支援専門部会
今後の方向性について（案）**

<主要な取り組み>

定例会議の開催

区内の障害福祉関係者が集まり、事例検討を行う会議を継続して開催する。

（考え方）

1. 定例会議は一定の成果をあげており、参加者からの希望もあり、今後も継続していく。
 2. 当面は、これまで開催してきた規模、内容、方法を変えずに行っていく。
- ただし、22年度の課題を踏まえて今後も検討
3. 規模や対象者について：広げていくことについてはいろいろな課題があるが、研修会などの機会を通して広く意見を募り、対象者を広げた会議の方法も検討する。
 4. 課題整理について：会議内容について、個別事例の検討だけでなくテーマを決めて議論することも可能である。そのような議論を通して、一定の課題整理をしていく方法が考えられる。
 5. 運営方法について：今後会議の進め方が一定程度成熟してきたところで、事務局の持ち方なども検討する。また、会議内容のフィードバックの方法についても検討していく。

<関連した取り組み>

研修会の開催

区内の障害福祉関係者を対象として、相談支援のスキルアップのための研修会を行う。

（考え方）

1. 定例会議で出てきた課題などを中心にテーマを設定して、様々な関係者に集まっていただき講演会やシンポジウム形式などの研修会を行い、スキルアップを図る。
2. 研修会形式であれば、より多くの関係者に参加してもらうことが可能である。
3. 研修会の機会を通して、定例会議に関するご意見をうかがい今後の会議の進め方や、区の関係者のネットワーク作りにつなげる。
4. 今後の課題として、関係者だけでなく様々な地域の方にもネットワークを広げていく必要があり、さらに障害に関する理解を広げられるような研修会についても検討していく。

<相談支援専門部会の方向性として>

- (1) 地域課題を整理するためにも、定例会議での事例検討をさらに充実させる。
 - ・ 相談支援事業者のスキルアップ
 - ・ 「相談支援」の内容の整理
 - ・ 各事業者で課題整理できるような枠組み作り
- (2) 相談支援専門部会で取り組むことを明確にし、課題について検討を進める。

<ul style="list-style-type: none"> 例) ・ 潜在的ニーズに届く仕組み（アウトリーチ） ・ 地域のネットワーク ・ 制度では行き届かない部分を埋める仕組み ・ 困りごとを簡単に話せる相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な資源の開発 ・ 民間事業所等も含めた相談支援システム
--	--

etc...